

**Citation:** Martí-Carvajal AJ, Solà I. Vitamin K for upper gastrointestinal bleeding in patients with acute or chronic liver diseases. Cochrane Database of Systematic Reviews 2012, Issue 9. Art. No.: CD004792. DOI: 10.1002/14651858.CD004792.pub4.

**CRG名:** Cochrane Hepato-Biliary Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 20 JUN 2012

**Clib issue No.;** N/U: 2012 Issue 9; U

## アブストラクト

**背景:** 上部消化管出血は、肝硬変の経過において最も高頻度にみられる罹病及び死亡の原因の一つである。肝疾患患者の上部消化管出血に対しては複数の治療が用いられる。その一つがビタミンK投与であるが、急性又は慢性肝疾患及び上部消化管出血患者に対し有効か有害か不明である。

**目的:** 急性又は慢性肝疾患及び上部消化管出血を罹患する患者に対するビタミンK投与の利益及び有害性を評価する。

**検索戦略:** Cochrane Hepato-Biliary Group Controlled Trials Register(2012年6月12日)、コクラン・ライブラリ(2012年12号の5)のCochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)、MEDLINE(Ovid SP)(1946年～2012年6月12日)、EMBASE(Ovid SP)(1974年～2012年6月12日)、Science Citation Index EXPANDED(1900年～2012年6月12日)及びLILACS(1982年～2012年6月19日)を検索した。臨床試験の2つの登録すなわち、世界保健機関(WHO)のClinical Trials Search Portal及びMetaregister of Controlled Trialsから、その後追加されたランダム化試験を検索した。検索した発表物及びレビュー論文の参考文献リストを検討した。

**選択基準:** 盲検化、言語又は利益及び有害性の評価の発表状態を問わない、ランダム化臨床試験。観察研究は、有害性評価のみとした。

**データ収集と分析:** ランダム化臨床試験のデータは、コクラン共同計画の標準的方法により概要をまとめるものとした。

**主な結果:** 有効性及び有害性を評価可能な、肝疾患患者の上部消化管出血に対するビタミンK投与についてのランダム化試験を同定することはできなかった。有害性を評価可能な準ランダム化試験、既存対照を用いた試験または観察研究を同定できなかった。

**レビューアの結論:** この更新レビューでは、肝疾患患者の上部消化管出血に対するビタミンKの利益及び有害性に関するランダム化臨床試験は同定されなかった。ビタミンK投与の効果をランダム化臨床試験で検討する必要がある。利益及び有害性のバランスを評価するランダム化臨床試験が実施されるまで、肝疾患患者の上部消化管出血に対するビタミンK投与を推奨又は却下することはできない。

## 簡易な要約(Plain language summary)

### 肝疾患患者の上部消化管出血に対するビタミンK

上部消化管出血は、肝硬変の経過において最も高頻度にみられる罹病及び死亡の原因の一つである。ビタミンK投与は、補助薬による介入として実施されるが、急性又は慢性肝疾患及び上部消化管出血患者に対し有効か有

害が不明である。この更新レビューでは、肝疾患患者の上部消化管出血に対するビタミンK投与の利益及び有害性に関するランダム化臨床試験は同定されなかった。肝疾患患者の上部消化管出血に対するビタミンK投与を推奨する又は却下するエビデンスは存在しない。

(監訳 柴田 実)

翻訳公開日: 2013年1月30日

**ご注意:** この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。